

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2021年11月分)

2021年12月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[「国家の日」の祝賀式典などの開催\(25日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[RS政府による第26回対国連安保理報告書の発表\(10月29日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[BH情勢をめぐる国連安保理討論\(3日\)](#)

●[ヴァールヘイ欧州委員のBH訪問\(24～25日\)](#)

(2) 二国間関係

●[エスコバー米国務省西バルカン担当特使のBH訪問\(7～9日\)](#)

●[ショレ米国務長官上級補佐官のBH訪問\(15～17日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[伊藤大使の各都市訪問\(3、4、26日\)](#)

●[伊藤大使のピオレッタ社訪問\(4日\)](#)

●[パニャ・ルカ大学シュクルビッチ医学部長に対する外務大臣表彰授与\(12日\)](#)

●[伊藤大使のドディック大統領評議会メンバーとの懇談\(12日\)](#)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●[BH外国投資促進庁、セルビア開発庁との間で投資協力に関する覚書を締結\(10日\)](#)

●[ランツ当地IMF代表、BH財政理事会の開催を求める書簡を発出\(23日\)](#)

(2) 経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

●[リパ移民・難民収容施設の再開\(19日\)](#)

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●新型コロナウイルス感染状況(1～30日)

11月の国内新規感染者総数は2万911人で、前月に続き感染者数は緩やかな増加傾向にある。

●「国家の日」の祝賀式典などの開催(25日)

サラエボ市等は、「国家の日」の祝賀式典を同市庁舎で開催。また同日には、コムシッチ大統領評議会議長(クロアチア系)およびジャフェロビッチ同ボシュニャク系メンバーが市内で行われた献花式典に出席した。なお、同祝日は現在のBH領域がナチス・ドイツ支配下にあった1943年11月25日、BH人民解放国家反ファシスト委員会(ZAVNOBiH)が初会合を開催し、のちに旧ユーゴの構成共和国になるボスニア・ヘルツェゴビナ社会主義共和国創設を宣言したことに因んだもので、現在BH連邦域内で祝日とされている。

(2) エンティティ、特別区

イ. スルプスカ共和国(RS)

●RS政府による第26回対国連安保理報告書の発表(10月29日)

RS政府は、11月5日に実施予定であったシュミットBH上級代表による国連安保理報告に先駆け、独自の対抗報告書を発表。この中でRS政府は、同エンティティが国政の不安定化を招いているとの批判を強めるボシュニャク系各党を念頭に、「BHの不安定化を惹起しているのは、セルビア系およびクロアチア系の憲法上の権利に対して恒常的な圧力と攻撃を加え、 Dayton 和平合意で定められた権力分有の原則を拒否するボシュニャク系の姿勢である。」などと主張した。

●オルバーン・ハンガリー首相等のRS訪問(6日)

オルバーン・ハンガリー首相およびシーヤールトー同外務貿易相がRSの中心都市パニャ・ルカを訪問、ドディック大統領評議会メンバーおよびビシュコビッチRS首相と会談し、RS・ハンガリー間の経済協力などをめぐり意見を交わした。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●BH情勢をめぐる国連安保理討論(3日)

国連安保理はBH情勢をめぐる定例会合を開催し、同月5日に満了を迎えるEUFORマンデートの1年間の延長を決定した。なお、同会合ではシュミットBH上級代表による第60回安保理報告も実施予定であったが、同代表の就任を認めないロシアおよび中国が、EUFORマンデート延長問題を盾に上級代表定例報告の実施を拒絶。結局、米、英などの西側諸国は、EUFORマンデート延長への支持と引き替えに、上級代表報告を取りやめることで妥協した。

●移民・難民問題に関する域内諸国間会合の開催(18日)

BHを含む欧州各国に流入する移民・難民問題対策をめぐり、サラエボにおいて“Sarajevo Migration Dialogue”と題した域内諸国会合が開催された。会合には、BHからテゲルティヤ閣僚評議会議長(中央政府の首相)およびツィコティッチ治安相が、また諸外国からはホイス・スロベニア内相、スパソフスキ・北マケドニア内相、シーヤールトー・ハンガリー

外務貿易相等が出席。そのほか、ヨハンソン欧州委員会内務委員およびヴァールヘイ同近隣・拡大政策担当委員もオンラインで会合に参加した。

●ヴァールヘイ欧州委員のBH訪問(24～25日)

ヴァールヘイ欧州委員会拡大・近隣政策担当委員は、首都サラエボ、RSの中心都市バニャ・ルカ、およびBH連邦でクロアチア系多数派のモスタルをそれぞれ訪問し、大統領評議会3メンバー、テゲルティヤ閣僚評議会議長、主要与野党の党首等とそれぞれ会談を行った。各会談では、選挙法改正交渉の進捗状況に加え、RSが強める分離主義的動きを念頭に、悪化する当国情勢の打開に向け意見を交わした。

(2) 二国間関係

●ジャフェロビッチ大統領評議会メンバーのアゼルバイジャン訪問(3～5日)

ジャフェロビッチ大統領評議会メンバーはアゼルバイジャンを訪問し、アリエフ同国大統領と会談した。両首脳は、経済、エネルギー、文化の各分野で更なる関係強化に向け協力していく方針で合意するとともに、アゼルバイジャンからBHへの天然ガスの安定供給に繋がると期待されるIAP建設プロジェクトなどにつき意見を交わした。

●ドディック大統領評議会メンバーのスロベニア訪問(7日)

ドディック大統領評議会セルビア系メンバーはスロベニアを訪問し、ヤンシャ同国首相と会談を行った。両首脳はBH情勢につき意見を交わし、この中でドディック・メンバーは、(過去

のエンティティ間合意に基づき)国に移管された一部管轄権のエンティティへの再移管実現に向け取り組む意向を述べた。

●エスコバー米 국무省西バルカン担当特使のBH訪問(7～9日)

エスコバー米 국무次官補代理兼西バルカン担当特使がBHの首都サラエボおよびRSの中心都市バニャ・ルカを訪問。サラエボでは大統領評議会各メンバーおよびBH議会上下両院の議長団と個別に会談したほか、バニャ・ルカではセルビア系2野党党首およびチュブリロビッチRS国民議会議長と会談し、RS与党が示唆する一部国家管轄権のRSへの一方的再移管に向けた動きを念頭に、BHの国政正常化に向け意見を交わした。

●ドディック大統領評議会メンバーのトルコ訪問(9日)

ドディック大統領評議会メンバーはトルコを訪問し、エルドアン同国大統領と会談した。会談に先立ちドディック・メンバーは、エルドアン大統領にはボシュニャク系に有利な一方的な情報しか与えられていないのが現状であるとの認識を述べた上で、BHの正しい現状を伝えたいと発言。また、停滞するBH情勢の打開に向け、トルコ・セルビア・クロアチア3か国首脳によるBH国内交渉の仲介実現に向けたエルドアン大統領の前向きな対応を期待する旨述べた。

●ショレ米 国务長官上級補佐官のBH訪問(15～17日)

ショレ米 国务長官上級補佐官(政治担当)がBHを訪問し、大統領評議会3メンバーおよび当国主要政党党首等と会談した。大統領評

議会メンバーとの会談に際してショレ補佐官は、(RSによる一部国家機関からの離脱に向けた動きを念頭に)「米国は、デイトン和平合意の連署国として、国家機関からの一方的離脱およびデイトン和平合意の不安定化を招く試みに対しては、制裁措置の発動を含む相応の対応をとる方針であることを再度明確にする。」などとしたプリンケン米務長官の書簡を手交した。

(3) 日・BH関係

●伊藤大使の各都市訪問(3、4、26日)

伊藤駐BH日本国大使は、3日にBH西部リブノ市(第10県)を訪問しブカディン同県首相等と、4日には南部モスタル市(ヘルツェゴビナ・ネレトバ県)を訪問しヘルツェグ同県首相と、更に26日には中部トラブニク市(中央ボスニア県)を訪問しダウトビッチ同市市長等とそれぞれ会談した。各会談では、経済、観光、文化、教育などの分野における協力深化に向け意見を交わした。



(写真:伊藤大使とダウトビッチ・トラブニク市長)

●伊藤大使のビオレッタ社訪問(4日)

伊藤駐BH日本国大使はBH西部のグルーデ市に所在するビオレッタ社(主に衛生用品製造)を訪問し、チョルルカ同社会

長兼オーナーほか同社代表者と懇談した。ビオレッタ社代表者からは、同社の歴史、活動、今後の展望などに関する説明があった。また、懇談後には、伊藤大使が同社工場を視察した。



(写真:伊藤大使とチョルルカ・ビオレッタ社会長兼オーナー)

●バニャ・ルカ大学シュクルビッチ医学部長に対する外務大臣表彰授与(12日)

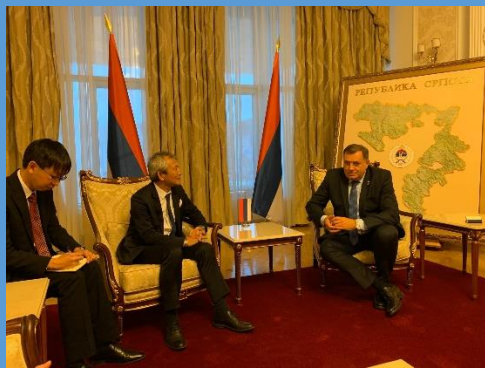
伊藤駐BH日本国大使は、バニャ・ルカ大学のランコ・シュクルビッチ医学部長に対し、令和3年度外務大臣表彰を伝達した。同氏は、1989年の日本留学後、長年にわたり日本とBHの相互理解の促進に寄与した功績が認められ、本年、BHで初めての外務大臣表彰を受賞することになった。



(写真:伊藤大使とシュクルビッチ医学部長)

●伊藤大使のドディック大統領評議会メンバーとの懇談(12日)

伊藤駐BH日本国大使は、バニャ・ルカ大学シュクルビッチ医学部長への外務大臣表彰授与のためにバニャ・ルカ市を訪問した際に、RS政府庁舎にてドディック大統領評議会メンバーとの懇談を行った。ドディック・メンバーは、同席するシュクルビッチ教授の受賞への喜びを述べた上で、日本からの長きに亘る支援に対する謝意を表明した。



(写真:伊藤大使とドディック・メンバー)

3. 経済

(1)経済政策・公共事業

●BH外国投資促進庁、セルビア開発庁との間で投資協力に関する覚書を締結(10日)

BH外国投資促進庁(FIPA)は、セルビア開発庁(RAS)との間で二国間の投資協力に関する覚書を締結した。今後、同覚書に基づき、FIPAとRASは両国への投資促進に向けたイベント共催などで協力していく見通し。

●ランツ当地IMF代表、BH財政理事会の開催を求める書簡を発出(23日)

ランツ当地IMF代表は、RS与党が主導する間接税庁(ITA)からのRSの一方的な離脱に向けた動きを受け、同問題につき協議する

ことを目的に、国と両エンティティの首相および財相で構成されるBH財政理事会を開催することを要請する書簡を発出した。他方で、セルビア系閣僚は会合開催を拒否する立場を示している(当館注:12月20日現在まで、会合は開催されていない)。

(2)経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

●米国、BHの新型コロナ対策に追加の資金援助(8日)

米国は、USAIDを通じて、BHに対して新型コロナウイルス対策支援として180万米ドルの追加資金援助を実施。同資金は今後、BH国内のワクチン接種体制の改善に向けた取組などに充てられる見通し。

●EU、BH国軍に計1,000万ユーロの支援実施の方針(14日)

EUは、国際社会におけるEUの紛争予防能力向上などを目的とする総額50億ユーロ規模の“The European Peace Facility”(2021～27年)の枠組で、BH国軍に対して、地雷除去能力の向上を目的に1,000万ユーロの支援を行う方針を決定した。

●欧州投資銀行、欧州高速回廊5C線の建設に500万ユーロの追加支援(18日)

欧州投資銀行(EIB)とBH財務省は、欧州高速回廊5C線のうち、BH南部でクロアチアとの国境付近を通るポチテリ＝ズビロビチ区間の建設に向け、EIBがBHに対して500万ユーロの追加支援を行うとする合意文書を締結した。

●リパ移民・難民収容施設の再開(19日)

BH国内の移民・難民の多数が集中する同国西端ジハチ市において、EUの支援により冬季滞在設備の設置などの改修を経たりバ移民・難民収容施設の利用が再開された。同施設では本年1月に火災が発生、改修工事が完了するまでの間、被収容者全員がBH国軍の設置した軍用簡易テントに滞在するなどしていた。同日に行われた施設再開式典には、改修を支援したEUおよびドイツの両大使が出席した。